

ウェルビーイング医療政策ワーキンググループ

設立趣意書

1. はじめに

今日の日本は、超高齢社会の進展、ライフスタイルの多様化、そして個人の価値観の変化といった大きな社会変容に直面している。これまでの医療政策は、主に疾病の治療と生命の維持に重点を置いてきたが、国民一人ひとりが身体的、精神的、社会的に良好な状態、すなわち「ウェルビーイング」を実感しながら生きる社会の実現には、より包括的な視点からのアプローチが不可欠である。また日本は世界一の長寿国である一方で、国際比較をするとウェルビーイングが低い傾向があるものの、その理由に関してはよく分かっていない。また健康はウェルビーイングの重要な規定因子の一つであると言われているものの、その因果関係を評価したエビデンスは限られている。

ウェルビーイングは上記のような重要な医療政策上のテーマでながら、現状の政策論議は、医療、介護、福祉といった分野が縦割りで議論される傾向にあり、ウェルビーイングという統合的な目標達成に向けたエビデンスに基づく戦略が十分に確立されているとは言えない。

2. 設立の目的

このような背景を踏まえ、日本医療政策学会内に「ウェルビーイング医療政策ワーキンググループ」を設立することを提案する。本ワーキンググループは、国民一人ひとりのウェルビーイングの最大化を目標とし、その実現に資するエビデンスに基づいた効果的な政策を研究することを目的とする。具体的には、従来の「医療」中心の視点に加え、経済学など多角的な観点からウェルビーイングの構成要素を分析する。日本の政策立案者だけでなく、OECDなどの国外のステークホルダーと協業し、ウェルビーイングの向上に繋がる具体的な介入策（例：予防・健康増進、社会的孤立の防止、自己決定支援、生活環境の整備など）を特定し、政策決定者や社会に広く選択肢として情報共有することを目指す。

3. 活動内容

本ワーキンググループは、以下の活動を通じて上記の目的達成を目指す。

- ウェルビーイングと健康政策に関する国内外のエビデンスや先進事例の収集、分析、評価（データ解析）
- エビデンスに基づく具体的な政策提言の策定と、学会、政府、地方自治体、関連機関、市民社会への情報共有
- 医学・公衆衛生分野にとどまらず、経済学、社会学、心理学、教育学、都市工学、情報科学など、関連する多様な分野の専門家や実務家との学際的な連携・協働の推進（Well-being in All Policies の視点）
- 研究会、セミナー、シンポジウム等の開催による知見の共有と議論の促進

4. メンバー（初期）

本ワーキングメンバーの立ち上げに際し、以下のメンバーが中心となって活動を推進する。

- 津川友介（代表）
- 今西洋介
- 池洲諒
- 南谷健太
- 玉田雄大

今後、本ワーキンググループの趣旨に賛同する学会員および、関連分野の研究者、実務家、政策担当者など、幅広い関係者の積極的な参加を募る。

5. 結び

本ワーキンググループの活動を通じて、日本の医療政策が「疾病の治療」から「国民のウェルビーイング向上」へとその重点を転換させる一助となることを期待するものである。将来にわたり、一人でも多くの国民がより豊かで健康な人生を享受できる社会の実現に貢献することを目指す。

学会員各位、ならびに関係者の理解と積極的な参加、協力を願うものである。

（日付：2025 年 7 月 28 日）